

# 阿寒摩周国立公園を走る 超小型モビリティ「てしかがチョコモ」。 環境×観光を実現する 次世代レンタカーに注目。



屈斜路プリンスホテル  
営業アシスタントマネジャー

北澤 康明 氏

2020年6月、北海道では初の試みとして、次世代型超小型モビリティのレンタカー事業「てしかがチョコモ」が道東の弟子屈町でスタートした。2人乗りの超小型電気自動車に乗って、見どころの多い阿寒摩周国立公園内をドライブできるとあって、コロナ禍でも上々の滑り出しを見せている。環境と観光を融合させて、地域の新たな魅力創出にと、この事業に携わっている屈斜路プリンスホテルの北澤康明氏に、事業の背景や利用者の声などを聞いた。

## 超小型モビリティ、道東の弟子屈町で実用化

——北海道では前例のない、超小型モビリティのレンタカー事業「てしかがチョコモ」を発案したきっかけについて、お聞かせください。

車両として使用しているのは、日産の「New Mobility CONCEPT」です。原付以上、軽自動車未満の新しいカテゴリーに属する電気自動車とされています。当ホテルがあるのは、阿寒摩周国立公園内で、この一帯は屈斜路湖や川湯温泉、硫黄山など観光スポットが豊富です。

以前から、SDGsの実現に向けた取り組みとして、何ができるのかを考えていました。ホテルとしてはもちろん、食に関することなど、さまざまな取り組みを行っていますが、阿寒摩周国立公園に位置するホテルならではの取り組みを模索していました。そんなとき、横浜市内で超小型電気自動車が数多く走っているのを知り、この阿寒摩周国立公園でも観光の移動手段として、この電気自動車がたくさん走るようになればと考えたのがきっかけです。ほとんどのお客様はマイカーかレンタカーで観光されますが、自動車に代わる環境に配慮したツールという発想で、超小型電気自動車の導入し事業化できないか策を考えました。

——「てしかがチョコモ」はどのように事業化されたのですか？

本格的な準備に取り掛かったのは、2019年です。初年度はJTB旅連事業の助成金を一部いただいて、摩周湖観光協会や川湯温泉の宿泊施設と一緒にスタートさせました。国立公園内を「ちょこっとドライブするのにちょうどいいモビリティ」ということで、「てしかがチョコモ」というネーミングに決定。当初は4台で始めた事業ですが、川湯温泉街にあった2台は硫黄山の影響で故障し、廃車になってしまいました。現在は、当ホテルとEZOライダーハウスさんの2カ所でレンタルを行っています。

超小型モビリティを公道で走らせるためには、さまざまな許可申請が必要です。運輸局と自治体の許可を得なくてはなりません。そういった許認可の申請を行い、事業化に向けて準備しました。

そのため、事業のスタート時は、弟子屈町内でのみ走行が可能でしたが、関係各所に働きかけて、今年から美幌峠展望台と津別峠展望台まで走行できるようになりました。屈斜路湖を一望できる美幌峠は、もっとも景観のいい場所のひとつ(写真1)。ここに行けないのは、ユーザーとして歯がゆかったので、何とか許認可をもらいたかったところでした。3年目になって、周辺の風光明媚な場所はほぼ網羅できるようになったと思います。



写真1  
美幌峠に差し掛かる  
上り坂も軽快に走る  
「てしかがチョコモ」

——車両の特徴やレンタル事業の概要を教えてください。

前後に二人乗りするタイプで、充電式の四輪車です。本来、窓は付いていないのですが、北海道という土地柄、オプションでビニールの窓を付けています。こちらは取り外しが可能です。1回の充電にかかる時間は約4時間。これで100kmほど走行できるようになっていますが、登り坂などがあると、若干、走行距離が短くなります。逆に下り坂では動力を使わずに充電される仕組みになっています。最高速度は約80km/hですが、60km/hくらいで走るのが快適です(表1)。冷暖房は装備されていないので、季節の風を感じながら走行します。

表1 「てしかがチョコモ」の車両、日産New Mobility CONCEPTの詳細

全長×全幅×全高	2340mm×1230mm×1450mm 前後二人乗り
最高速度	約80km/h
車重	500kg
出力	定格8kW,最高15kW
航続距離	約100km
充電方法・時間	コンセントタイプ普通充電200V、約4時間
タイヤ&ホイール	前125/80R13 後145/80R13

現在、6月1日～10月31日までの期間でレンタルを行っています。当ホテルでは宿泊のお客様限定で貸し出し、フロントで受付しています(写真2)。手続きを行ったら、出発前にスタッフによる操作方法のご説明があります(写真3)。操作方法はとてもシンプルなので、普通自動車免許をお持ちの方なら、すぐに運転することができます(写真4)。

レンタル料金は、3時間3,300円。これに免責保険料

1,100円がかかります。延長料金は1時間につき1,100円です。

当ホテルからだど、和琴半島や砂湯、硫黄山、摩周湖、そして美幌峠の道の駅まで十分に周遊していただけます。



写真2 フロントで手続き後、キーを受け取る



写真3 操作盤の説明やエンジンの掛け方、発進・停車方法など簡単なレクチャーを受ける



写真4 操作盤はとてもシンプル。残りの充電量がひと目でわかる

## ——事業化して3年、利用状況はいかがですか？

2020年度からのスタートを目指して準備を進めていましたが、予期せぬコロナ禍に突入してしまいました。それでも、計画をストップしようという考えはありませんでした。ホテルの休館時期などもあり、苦しい時期のスタートではありましたが、これまで100件ほどのご利用がありました。また遠方からのお問い合わせも、多くいただいております。やはり車がお好きな方にとっては、かなり気になる乗り物のようです。ゴーカートのような感覚で気軽にお乗りいただけて、公道を走って阿寒摩周国立公園内の景色を見にドライブできるという、観光のひとつのアトラクションとしてお楽しみいただいている状況です。

特に長期滞在されるお客様にとっては、ちょっとおでかけしたいという時に、ご利用いただけるので喜ばれます。また各所でほかの観光客の方々から声をかけられ

て、話しが弾んだという声も多く寄せられています。観光地ではかなり注目を集めているようです。

## ——おすすめのコースはありますか？

やはり、弟子屈町内の景色のいいところは、すべて見ていただきたいですね。ここからですと、穏やかな景色が広がり、和琴半島(写真5)や、湖畔を掘ると温泉が出てくる砂湯、川湯温泉の源泉になっている硫黄山、カルデラ湖で世界一級の透明度を誇る摩周湖もおすすめのスポットです。ホテルの裏手に広がる屈斜路湖(写真6)も、美幌峠から一望すると日本最大のカルデラ湖を実感していただけますし、道の駅ではお土産ショッピングや地元のグルメも楽しめますので、こちらもぜひ、チョコモでお出かけしていただきたい場所です。



写真5 湖畔のすぐそばにテントも張れる和琴半島



写真6 美幌峠から一望する屈斜路湖

## 次世代レンタカー「てしかがチョコモ」が目指す未来とは

### ——今後の事業展開はどのように考えていますか？

環境に配慮しながら、地域の魅力を最大限に生かした観光資源として、この「てしかがチョコモ」を成長させていきたいと考えております。観光ビジネスのひとつとして、持続させていくことが大切です。もっと多くの事業者の方々にご協力いただき、このモビリティ事業を広める必要があります。そのためには、まず現在、稼働している当ホテルとEZOライダーハウスさんとで、成功事例としてビジネスモデルを作っていくかなくはなりません。

1台でも2台でも、増やして行ける取り組みをしながら、業界内での事例発表なども積極的に行い、協力してい

ただける事業者呼びかけて行こうと考えております。観光ツールのひとつとして、このモビリティの普及を進めることで、最終的に弟子屈町のネームバリューを高める一翼を担えたらというのが目標です。宿泊施設だけでなく、飲食店や道の駅などが、「てしかがチョコモ」のレンタルスポットに加わってもらえたら、充電できる場所も増えますし、さらに広がりを見せるのではないかと考えています(写真7)。この事業をスタートさせた当初、阿寒国立公園内をたくさんの超小型モビリティが走っているイメージが湧きました。それを実現できるように、取り組んでいきたいと思っています。



写真7 充電は専用のコンセントで。  
現在、充電できる場所はレンタルスポットのみ

### ——新しいモビリティに期待しているのは、どんな可能性ですか？

ゆくゆくは、スマートフォンのアプリと連動して、簡単に予約ができるようにしたり、レンタサイクルやJR、バスなどほかの交通機関と連携・連動したりできたらと考えています。さまざまな企業と繋がることで、サービスの拡充や利便性の向上が図れます。

JRやバスでこのエリアに来た観光客の方々が、チョコモに乗り換えて、観光を楽しむ。そんな使い方ができればと思っていますが、そのためにはもう1ステップか2ステップくらい成功事例をあげていかなければならないと考えています。すでに知床や釧路の交通事業者や観光事業者からの視察なども受け入れています。エリア内はもちろんですがその他の地域、他業種との連携や協力も積極的に行っていききたいですね。SDGsへの取り組みも盛んになっているので、ベンチャーなどでもアンテナを張る企業が増えています。それを好機と捉えて、積極的に動けたらと思っています。私たちのような地方の民間事業者が動くことで、全国規模の企業や行政にも魅力を感じ取ってもらえたらうれしいですね。

### ——ここ数年のコロナ禍で観光事業が落ち込む中、「てしかがチョコモ」の取り組みは、明るい光になっています。逆境に負けない原動力は、どこから来るのでしょうか？

「てしかがチョコモ」のスタートは、環境と観光の融合に対して、何かできないかという考えでした。しかし、それだけではなく、やはりこういった新しい取り組みへの挑戦が私は好きなのだと思います。コロナ禍では、ほかに

もホテルの敷地内でグランピングができる新しい宿泊プランを発売するなど、苦しいなかでもアイデアで集客を狙ってきました。当初、グランピングのアイデアを出したときは、「ホテル事業者なのに、屋外に宿泊させるなんて」といった意見もありましたが、その意見と折り合いをつけるなかで、客室と屋外のグランピング施設をセットで利用できるというプランを作ることになりました。これがお客様に変なご好評を得て、おかげさまでグランピングは大成功の事例となりました(写真8)。

ですからビジネスモデルとしての成功例を作るのは、非常に大事なことだと実感しています。「てしかがチョコモ」もグランピングのように、成功例とともに地域内外へと広がって行けるのではないかと考えております。

### ——今後に向けて、抱負をお願いします。

「てしかがチョコモ」はまだ動き出したばかりです。成功事例にしていきたいと、頑張っていますのでこれからの展開にぜひご期待いただければと思います。阿寒摩周国立公園内に位置するホテルとして、全国的にも希少な環境を守りながら、観光を通じてこの自然のすばらしさを多くの人に知っていただく取り組みをしていきたいと考えております。人の手が入って壊れる環境もありますが、人が守るべき環境もあります。環境を守りながら、持続可能な観光の普及に向けて、今後も歩みを止めずに進んでいきたいと思っています。



写真8 屈斜路プリンスホテルのガーデンに設営されているグランピング施設。湖畔でバーベキューや焚火が楽しめる